

湘南里川づくりフォーラム2018 全体意見交換会概要

[参加者]

フォーラムでは社会人と学生が集まっているいろいろな意見交換を行うことができ、毎年楽しみにしている。SNSについてなどの議論があり、新鮮な話を聞くことができたが、学生は社会人に対して遠慮しているように思える。

例えば草刈りの議論で、学生から見た長期的な地域活性化に草刈が役立つのかどうかといった点について、学生は納得しているのか。自分達がこういう社会、こういう川になって欲しいという意見を直接示すくらいがいいのではないか。

年配の人に配慮せずどんどん自分達の意見を出してもらいたい。

[司会]

フォーラムに出席されている方は経験が豊富で地域のことをよく知っている方が多い。そうした方へヒアリングするのもよいのではないか。ネットからの情報だけではなく、地域の方とのコミュニケーションも勉強になると思う。

[参加者]

私は里川づくりの個人会員である。フォーラムにはみんなの会に属している方も属していない方もいらっしゃると思うが、個人会員は見守りウォークや交流会など個人の動きやすい形で活動をしている。みんなの会結成時の団体会員の意見としては、あくまで各団体の活動を第一にしたいというものであった。そのためみんなの会の目的は各団体の活動の支援という特色が強かった。みんなの会が今後積極的に活動を展開しようという方針を示した時に団体会員は賛成できるのだろうか、またどういう活動であれば団体会員の指示を得られるのか。もしこの場に団体会員の方がいれば意見を伺いたい。

[参加者]

私はみんなの会の団体会員です。みんなの会設立に向けた活動をおこなったのはもう10年程前になるが、その頃と今で大きな違いは個人会員の方が非常に積極的に活動をされているということである。

その一方で個人会員と団体会員間の連携はうまくいっていないということを感じている。個人であれ、団体であれ、川への思いは同じであるはずなので、あまり両者を分け隔てる必要はないのではないか。川をどうしていきたいかという方向性を具体的に示すことこそが重要だと思う。

[司会]

先ほど学生がレーダーチャートを用いて、理想の川について説明をしてくれたが、非常に分かりやすくいい手法だと思う。この手法を用いた理由や比較方法など詳しく教えていただければありがたい。

[学生]

川の里川の要素を抽出してレーダーチャートにまとめる研究を行ったが、多自然川づくりを実施した川について調査するとレーダーチャートが非常に大きくなった（大きな正六角形が理想とされる）。しかし、これに比較すると金目川水系は小さくなってしまった。この比較をすることで金目川に足りない要素が視覚的に分かるのではないか。



[司会]

話が戻るが、先ほど議論になったみんなの会として積極的に活動をしていくという方向性は現在みんなの会が担っているネットワーク的機能を廃止するというものではない。従来の活動に加えて積極的に活動をしていければいいのではないか。

[参加者]

みんなの会会員へのメールによる情報共有も重要だと思う。大学生の発表ではSNSの活用について意見をいただいた。参考にできる部分も多いのでは。

[学生]

我々がSNSで発信する内容は金目川の景色や歴史を主とし、金目川水系に詳しくない方々へ興味を持っていただけるようなコンテンツにしていければと思っている。分科会ではどういった内容を発信していくのがよいかについて議論を行った。

[参加者]

先日、防災まちづくりのフォーラムが東海大学で開催されたが、防災と川づくりとを積極的に結びつけていければいいのではないか。

[司会]

インターネット上での広報は非常に重要であるが、インターネットが不得手な方向けにFAXやメール等の手法も有用性が高いと思う。インターネットに情報をアップロードするだけでなく、メール等で積極的に情報を発信するのも重要ではないか。

[参加者]

みんなの会の広報事業の一貫として、広報担当役員の方に川のイベントに関するチラシを年間2期に分けて作成していただいているが、それを年間4期に分けて作成していただければありがたい。

[参加者]

現在作成しているチラシは春と秋に各市で開催されるイベントで一般の方に配布するために作成している。みんなの会会員への情報共有については事務局と連携してやっていきたい。各団体からイベント情報等を積極的に提供していただければありがたい。

[参加者]

情報発信の話に戻るが、この会場にいる方にとってはどのようなツールが一番便利なのかアンケートをとってもらえないか。

(参加者に対して郵送、FAX、電子メールのどのツールが最も便利かについてアンケートをとった結果、電子メールと回答した参加者が多数であった。)

[参加者]

もう一つ、みんなの会のホームページを見たことがあるかどうかというアンケートをとってもらえないか。

(みんなの会のホームページを見たことがある方は少数派であった。)

[藤野会長]

通信手段について皆さんにお考えいただきたいのは、どの団体も若者の勧誘に深刻な問題を抱えているということである。学生は、現在メールを使用せずにLINEを使用しており、我々教員もメールとLINEを併用して学生と連絡をとっている。若者を取り込むためにはそうした彼らの状況を理解することが重要なのではないか。核になる若者を中心に情報を流す等、工夫が必要であり、学生が良い役割を果してくれることを期待したい。

また、先ほどの学生による座禅川に関するレーダーチャートの発表の補足だが、川の上流や中流によって形が違う。金目川を理解するには川全体を見る必要があると思う。

学生の研究ではハード的な里川の研究と、各世代をどうやってつなげていくかというソフト的な里川の研究に分かれている。様々な世代を取り込むための御意見があれば伺いたい。例えば保護者と子どもに同時に野外での観察会へ参加していただくことで、2世代が活動へ参加できる。そういった活動ができれば面白いのではないか。



[参加者]

フォーラムのチラシについては、多くの学校機関へ送付していると聞いているが、多くの子ども達が参加してくれていればありがたい。
今の保護者は野外活動の情報を良くみていて、子ども達に必要だと感じれば積極的に参加してくれていると思う。

[参加者]

エコスクールに参加してくれた子ども達を次につなげるという点で、エコスクールに参加してくれるのは小学生が一番多く、中学生・高校生になると多忙のためか参加機会が減ってしまう。
大学生になると先ほど発表いただいたように研究等での関わりがあると思うが、間の世代を取り込んでいくにはどうすればいいのか。



[学生]

子ども達の水辺での体験をつくることがまず大事であると思う。進学に伴い、地元から都心にでていく人もいると思うが、水辺での体験が地域への愛着を育むのではないか。そうした意識が人材の育成につながると思う。

[参加者]

たしかに中高生の活動への参加は少ないように感じるが、ボランティア活動の一環として参加してもらうような機会もある。学校活動の一環として参加してもらえそうな形がとれればいいのか。

[司会]

活動を広めていくためには、先ほどから議論になっている情報共有の手段を広げることも大事だと思う。例えばLINE等のツールを上手く使えないか。

[学生]

情報を共有するのであればやはりメールがよいのではないかと、情報を発信するのであればFacebook等のツールがふさわしいと思う。一過性ではなく継続的に情報を発信するのが大切だと思う。

[藤野会長]

最後に、みんなの会の新年度の活動として、各市でミニフォーラムを開催したいと考えている。やり方については今後検討していくが、ぜひ御参加いただければ。